

## 平成22年度 第3回鶴岡地域審議会会議録（概要）

○ 日 時 平成22年11月16日（火） 午前9時30分～

○ 場 所 鶴岡市役所 3階 議会委員会室

### ○ 出席委員（五十音順）

阿部和博、五十嵐修、五十嵐吉右衛門、五十嵐松治、後藤輝夫、今野毅、齋藤春子、  
佐藤正廣、竹内峰子、茅野進、早坂剛、早坂裕子、本間孝夫、山田登

### ○ 欠席委員（五十音順）

五十嵐寅吉、遠藤勲、延味孝太郎、加藤玲宗、今野利克、荘司正明

### ○ 市側出席職員

企画部長 小林貢、市民部次長 門崎秀夫、企画調整課長 高坂信司、  
市民生活課主幹 富樫栄一、地域活性化推進室長 吉住光正、企画調整課係長 佐藤豊、  
市民生活課係長 清野健、地域活性化推進室係長 粕谷一郎、  
地域活性化推進室主任 飯野剛

1 開 会 （午前9時30分） 進行：吉住地域活性化推進室長

2 あいさつ

3 協 議

（1）鶴岡市総合計画実施計画の策定について（説明：企画調整課）

（2）地域コミュニティ実態調査について（説明：市民生活課）

（3）分科会

・地域コミュニティ分科会 （議会委員会室）

・産業経済分科会 （401会議室）

（4）全体会

・分科会での協議内容報告

（5）その他

4 その他

5 閉 会

1 開 会 (午前9時30分) 進行：吉住地域活性化推進室長

## 2 あいさつ

鶴岡地域審議会会長 早坂 剛

出席されました委員の皆様も硬くならないで思っていることを是非、発言していただきまして、来年末には鶴岡地域審議会としての提言を出せるまで持って行きたいなと思っております。地域コミュニティ、産業経済の2つの分科会がありますが、幅広い、多様な流れの変化の中ですので、いろいろなご意見・コメントをお持ちかと思えます。どうぞよろしく申し上げます。

鶴岡市企画部長 小林 貢

今日の地域審議会ですが、鶴岡市総合計画の実施計画については毎年度ローリングしながら具体的な施策を進めることにしておりますが、12月末の鶴岡市総合計画審議会でご審議を頂く前に、各地域審議会でご意見を頂戴しながら案を整理していきたいと考えておりますので、後ほど事務局のほうから説明をさせていただきます。それから地域コミュニティ実態調査についてですが、合併をして地域の条件も違うことからいろいろな課題についてこれまで調査をしまいいりました。担当のほうからこの実態調査の結果とそれに合わせ、自治会と行政の関わり方も地域によって相当な違いもありますので、その辺も含めながら説明をしてご意見をいただければと思っております。それから榎本市長就任後、行財政改革推進委員会を開催しながらいろいろな施策の見直しを行っておりますが、この行革の推進員会と合わせて旧6市町村単位に合併特例法の規定により地域審議会を立ち上げ、それぞれ地域振興の観点からご議論いただき、この2つを両輪としながら、これからの鶴岡の施策について住民の皆様と一緒に進めてまいりたいと考えているところです。

この鶴岡地域審議会であります。委員の皆様は任期が平成24年6月までとなっております。市長もご議論いただきながら、地域の活性化、これからの地域づくりについてご提言をまとめていただきたいと考えております。地域コミュニティと産業経済の2つの分科会を設けながら、議論を深めていただいておりますが、これらのテーマを来年度も更にご議論をいただきまして、ご提言を頂戴できればと思っております。また来年度、この審議会を進める上で、いろいろな勉強会とか講習とか、また先進地に出向いての視察などとか審議会の活動として具体的なご提案がありましたら、後ほど分科会を出していただければ来年度予算にむけて進めてまいりたいと考えております。今日のご審議よろしくお願いたします。

○ 吉住室長 協議の前に、今日の日程についてご説明させていただきます。最初に市のほうから、鶴岡市総合計画実施計画と地域コミュニティ実態調査について、1時間ほど説明をさせていただきます。その後、分科会に移り、地域コミュニティ分科会をこの部屋で、産業経済分科会は4階の401会議室で、こちらも1時間ほどご議論いただき、最後にご足労ですがこの部屋にお集まりいただき、全体会で終了としたいと思います。それでは早速、協議のほうをお願いします。進行のほう、早坂会長よりお願いします。

### 3 協 議

#### (1) 鶴岡市総合計画実施計画について

##### ○ 企画調整課より説明

#### (2) 地域コミュニティ実態調査の実施状況と課題について

##### ○ 市民生活課より説明

#### (3) 分科会

##### <地域コミュニティ分科会>

##### ○ 吉住室長（まとめの報告）

○ 山田登分科会長 只今、資料につきまして事務局より説明をいただきました。最初の町内会・自治会活動における会費とか寄付金などの実態について、鶴岡市町内会連合会でも調査を考えております。それも含め、何かあればご発言を頂きたいと思っております。

○ 齋藤春子委員 私が婦人会の代表として入った頃は、リーダー研修会が月1回位あってそれが勉強になったと感じています。世代も変わりコミュニティも随分変わってきているので、もう一度、コミュニティとは何かについて考える必要があるのではないのでしょうか。コミュニティの部分と行政から依頼される募金などと分けた組織が出来ないかとも考えます。リーダーとしても、世代が変わってきているのだから、中身も変わってきていいはずですよ。町内会とコミセンとの中身、性格はどのように違うのでしょうか。

○ 富樫主幹 鶴岡市は、コミセン化して30年が経過しています。コミセン化する段において、元々社会教育の公民館から地域自治を進めるという観点でコミセン化を図ったわけですが、実際に今の流れは施設維持の部分は市民生活課で、社会教育事業は教育委員会と二本立てになっています。そういう意味ではコミュニティというのは、地域の方々が自主的に地域づくりを進めるための拠点施設であり、活動するためのソフト的なところもあります。町内会や自治会などの集落単位のコミュニティと学区地区のコミセンの役割が重複しているところはないか、行政の役割分担も含めて調査をしながらどうあるべきか整理をしたいと考えているところです。実は合併を機にコミセン化を全地域にという考え方もあったのですが、あまりにも違いすぎるようです。地域においては地区という概念が薄いものですから、鶴岡でこれだけいいものがあるのでどうですかといった整理が市でも出来ていません。今まで30年間のコミュニティの良い点、悪い点、何が良くて、何が足りないのか、きちっと整理をした上で、今後に繋げて生きたいと思っています。

○ 山田登分科会長 第二学区の場合、コミセンを中心にした諸行事、そして各町内会単位の子どもを通じた地域づくり、社会福祉協議会でやる行事、消防とか防犯とかコミセンを中心に町内会でお金を出しての活動、どこからどこまでがどの団体がというような形になっていません。町内会長がすべての会議、団体の理事になるという現状では、会長の負担も大きいので、町内会長又は町内会から別の人も選出できるように、コミセンの

規約も改定されております。来年度からその規約で行う予定ですので、業務の量によって、いろいろ仕事を軽減したり、みんなで分担したりといった組織の改編はあるのではないかと考えています。

- **茅野進委員** 4層と3層との違いがあるわけですが、学区でやるのは自治振興会、コミセンだと思いますし、4層だと町内会での活動となる訳ですから、これらを区別して話をしていかないとまずいのではないのでしょうか。町内会・自治会とやりますとこっちは勝手に出来ないから町内会だと思いますし、それから町内会以外、共通するものはコミュニティ振興会ではないかと私は割り切っています。
- **山田登分科会長** それぞれ学区の規則もあるかと思いますが、どういうふうになればその学区のまちづくりが、あるいは集落がうまくいくかだと思います。役員のなり手についても大変な面があります。今回の民生委員の選出の際にも、私が町内会長と出向いて何度も頭を下げてお願いしたというケースもありました。人をどのように町内会や社会活動の中に巻き込んで、一緒に仕事を覚えさせ育てていくのがこれからの課題ではと考えています。
- **齋藤春子委員** 民生児童委員は、町内会長が人を推薦すると聞きましたが、それはずつと変わらないわけですね。それと同じように地域の場合は、コミセンの会長がそれを受けるということになるのでしょうか。コミセンの会長には、委嘱されてはいないのではないのでしょうか。
- **富樫主幹** 先ほど齋藤委員から、コミセンが行政の下請け的な働きになっているとのお話をいただきまして、私ども調査の段階で自治組織の代表の方からとにかく市のほうから流れてくる文書は多いし、寄付など法定外負担金の徴収もある。どういう業務がコミセンなり、町内会長さんをお願いしているのかと整理をしながら、なるべく一方的な文書等を増やさない、業務を減らしていくような努力をしたいと考えております。
- **後藤輝夫委員** 町内会、自治会に関して出された資料から2点だけお話しさせていただきたいと思います。最初に会費の問題です。私が藤沢住民会の役員をした当時は、住民会の会費は7段階でしたが、2～3年をかけて均等化しました。それは今日まで続いていて、不平を言う人はいなくなりました。会費は、湯田川地区というコミュニティの中でも、集落規模の違う藤沢と湯田川では違っております。湯田川では今でも何段階かに分かれているのではと思います。従って、会費のことについては、市民生活課資料の最終ページにあるように、規模によってどのような会費になっているのか、というようなことを調査し、その結果を見て住民会で自らが調整していくような機能にすべきではないのでしょうか。第二には事業や行事に伴って、会費が必要になってくるわけですので、少子高齢化という問題を現実を受け止めて、そこからくる負担・事業で精選すべきものは何か調査をして、事業の廃止、見直しあるいは軽減する策を、それに基づいて講じていく必要があると思います。
- **山田登分科会長** 会費の実態を把握することは必要だと思いますし、それに対する調整機能も鶴岡市町内会連合会としては、発揮をしていかなければならないと考えています。会費の件はこの程度にして次に移りたいと思います。地域福祉活動に関わってご意見を

お願いします。

- **茅野進委員** 昨日、学区の社会福祉協議会コーディネーターが集まったの情報交換会があり、福祉協力員制度のあり方について討議しました。斎藤さんが言うように郊外地はコミセンで事務局をやっているのですが、第一学区と第五学区以外は福祉協力員を置けないといいます。それは、町内会長は多忙であり、民生児童委員の方からは守秘義務の中、見守り支援する防災マップまで作成する必要があるのかという2つの大きな考えさせられる問題があるからです。町内会長としても、自主防災もあるのに、それで何故、福祉協力員がそこまでやるのかという話が出てくるわけです。民生児童委員の方も、災害が起きて、要援護者を一人も見逃さない全国運動をやっているにも関わらず広まっていないし、マップづくりに対しても非常に抵抗があるようです。福祉協力員制度は、まちづくりの一番の柱だと思いますので、町内会長からもご理解をいただきたいと思います。それから、学区で町内会長会、社会福祉協議会、コミュニティ振興会の3団体による、定期的な会議を開催していただきたいというのが私の要望です。更に私は民生児童委員も入って4団体でもいいと思っているのですが、そういうものが定期的に会議を開催して、情報交換する。やはり、まちづくりは話し合い、会議を多くもたないと共有できないと思います。その辺を、山田会長さんにもリーダーとして進めていただければありがたいと思います。
- **山田登分科会長** 民生児童委員の仕事が多岐にわたっていることから、仕事を軽減すると同時に社会福祉の活動が積極的にできるように、福祉協力員を各町内から選出してもらいたいということが、かなり前から話題になっておりました。残念ながら、それが難しい状況にあったことから、その辺を町内会長の理解を得ながら強力に進められるようにというご意見でした。やはり、これは進める必要があると思います。
- **茅野進委員** 少なくとも第二学区、第三学区には、高齢化率が40%を超えている町内会が6～7町内会あるわけです。それをどういうふうに支えていくのか、これから5年も経てば、どの町内会も50%にもなると思うのです。それに対してどう考えているのか、実態を出し合いながら話し合っただけで欲しいなというのが私のお願いです。
- **五十嵐松治委員** 私独自の意見なのですが、一番根底にあるのは一人ひとりのボランティア精神というか、そういうものが年々薄れてきているような気がしてなりません。民生委員が今期、改選期を向かえて、様々にお話を聞いて回るわけですが、この前の東京都の100歳以上の高齢者の所在不明問題などいろいろ影響を受けているというか、民生委員は私には出来ないという断られ方が非常に多くて、町内会長さんはじめいろいろな方が皆、苦勞しています。市役所を退職した方にもお願いをするのですが、内容を知っているものから、様々な面で断られてしまいます。これは民生委員に限らず、福祉に取り組む場合においては、非常に大きなネックになっている問題ではないかと思っています。小さな頃から大人の姿を見て子供は育つと申しますが、大人自体がそういう消極的な姿勢の人が現在多くなっていると感じています。そういう面で、民生児童委員というのは、福祉全体に関わるわけですが、今の福祉協力員制度と比較してみますと福祉協力員というのは、ある地域に高齢者とか児童を見守るという福祉に対応する

わけですが、民生児童委員は生後から命を失うまでの幅広い年齢層の人たちを対象としております。人によってはそういう協力員の方々は様々にしてくれるのですが、民生児童委員は滅多に来ないとかの問題が生じてきて、そういう面では非常に苦労しているわけです。本来、そんな小さなことよりも一人ひとりの住民が、自分達の地域をどう良くしていくのかというその意識に非常に差があるような気がしてなりません。そういうことで、小さい頃からの教育の面、大人の姿、そういうものに影響されているのかなと常々思っております。自分達の地域を、自分達がどうしていくかという思いをいつも訴えたいと思っておりますが、中々これは長期的な課題でありまして、一挙に解決する問題ではありません。従って、一つ一つの問題に絆創膏を貼るように手当てをするのですが、それでは成り立たない。その次期リーダーを養成する時にお互いが余計なことをしたくないという思いがこういうことに結びついていくのではないかと今悩んでいます。

- **山田登分科会長** 話題の中に高齢者も出てきておりますので、高齢者、民生委員、子育てに関わる部分でご意見ありましたらお願いします。
- **後藤輝夫委員** 一市民の立場からすると、その仕事は民生委員の仕事だとか、社会福祉協議会の仕事だとか、というふうに自分の胸の中にセクトを作ってしまうような気がします。したがって、今、五十嵐会長さんから話のあったこと、子どもの時代からということになると、このコミュニティの活動事例集というのは、ものすごくいい。14万市民の中にこういう取り組みをやっている人がたくさんいるということが紹介されていて、勇気を与えられます。この冊子が、ただ自治会の役員に配っているとか、ホームページとか限られた中でしか公開されていないのが残念だと思います。私は、福祉とか防災とかあるいは親睦とか、どんな機会でも配布してもらいたい。これをみんなが見るようになれば、今の危惧されている問題の解決に非常に有効だと思います。まず市民に広く伝わっていくような手立てをとって、鶴岡市はあったかいまちだというような地域づくりをしていくことが肝要だと思っています。
- **山田登分科会長** 素晴らしい活動事例集も出来ております。こういう実践がなされているということをもっともっとPRする必要があるのではないかと、もっと皆から読んでもらう方策も必要でないかと、ということですね。
- **五十嵐修委員** 先ほど富樫主幹のほうから話がありましたコミュニティ実態調査ですが、今、田川地区でも行っているのですけれど、最初は集まりも悪く、なかなか活発に参加する人も少なかったのですが、今年あたりから地域の人たちがこの地域を良くしていかなければという気持ちが出始めてきて、最近では、声をかけているいろんな団体の方も集まってきていますし、すごくいろいろな意見、子育てや自治振興会、産業とかいろんな話が出てくるわけです。やっぱり、何とかこの地域を元気にしようとか、そういう地域の人たちの意識付けが一番大切な事だと思います。皆さんの良くしようという気持ちがあれば、自分達で出来なければ行政の力を借りるとか、いろいろしていかないと出来ないわけですので、学区編成の問題も学童保育でも、地域で一人ひとりが意識を持ってこれからやっていかなければならないということが一番大切ではないかと思っております。
- **山田登分科会長** 人を育てながらそれぞれの地域活動をするという考え方は大事にして

いかなければならないと思います。私の町内でもそういう考えがありまして、今年度初めてだったのですが、ゴミの分別についての学習会に大人だけでなく、子どもからも参加して欲しいと要請をして、何人かの子どもから参加してもらいました。また、防災訓練の際にも、消火訓練、人工呼吸、AEDの講習会にも、何組か親子と一緒に参加してくれました。そういう機会を作っていくことによって、子どもも地域の活動に理解を示し、また親子一緒に参加することで町内の融和が図られるというような、そういう工夫もあっていいのではないかと思います。学童保育とか共働きとかに関連して、地域の中には様々な問題もあるのではないかと考えますが、こういったことを掘り起こしをしながら、まちの融和を図り、まちづくりをしていく、そうすると情報交換、個人情報もスムーズに聞き取れるようになるのではないかと思います。

- **阿部和博委員** 子育てということが話題になったようですが、実は私の娘が庄内町に嫁いでいまして、2歳未満の子どもおりますので、家に帰ってきた際に、庄内町の子育て支援について話をすることがあります。庄内町では、乳幼児に対してこういう支援があるとか、先日は1日保育だとか、そういう話を聞くにつれ、それでは鶴岡市ではどうなのか、小さい子がいないので情報が無いのですが、やはり子育てのしやすいまちづくりといますか、少子高齢化で子どもが少ないのに、鶴岡で子どもを産んでも他の町に行くということにもなりかねませんので、その点、子育てしやすいまちづくりという事での行政の取り組みも検討していただきたいと思います。
- **山田登分科会長** 子育てしやすいまちづくり。なかなか良いテーマかと思います。そういうまちになれば、非常によろしいのではないかと思います。
- **齋藤春子委員** 今日教えてもらわなくてもいいのですが、何故、コミセンの会長、副会長の会議で民生委員を選ぶのでしょうか。希望者を募ってはダメなのでしょうか。いつも不思議に思っています。先ほど、茅野さんから話がありました福祉協力員についても、私は希望者あるいは指名でもよいのではと思います。規約もわからないのですが、みんなが選んだ、みんなの民生委員とならないのかと思うのです。先ほど申しあげました組織のこともそうですし、そんなことが世の中にはまだまだあるような感じがしております。
- **竹内峰子委員** 誤解のないように説明します。三瀬では民生児童委員を選ぶ場合には、自治会からの推薦です。今回、一地区と三地区が交代するわけですが、それぞれの地区会長の推薦ですので、その会長さんに任せるとするのが自治会の慣わしのようです。極秘ではないのですが、12月1日の交付式までは外に出さないというのがルールですので出していないのかなと思います。三瀬では自治会の会議の下で、そういうルールを作っているのですが、一般住民に分からない点があるとすれば、自治会長にその旨を申し上げ、こういうふうな形で選んでいるということを問うのもひとつなのかなと思いました。先ほど、五十嵐委員のほうから、大人の姿を見て子どもは育むという話がありましたが、今日まで10年間、私達、お母さん達のグループでは、三瀬小学校で年に1回ですが、手づくりの人形劇を公演しています。毎年、子ども達が目を輝かせて、人形劇が出来ないほどたくさん参加してきます。そういう中で人形劇を続けているわけですが、こうした

活動を広げながら、子育てをするなら鶴岡でというようにしたいと思っています。

- **阿部和博委員** 実際に集落を回っていても、自主防災組織はあるが名ばかりで、組織が機能しているのかどうか、疑問を感じています。重要なのは有事に際して、組織として機能するかどうかということです。消防団としても人材の育成などを進めながら、今後の地域の自主的な活動にも期待していきたいと思います。
- **山田登分科会長** 私も自主防災組織については、有事の際に機能するかを心配しています。また、災害の時の学習が市民に生かされていなくて、それぞれの横のつながりもないような気もしています。まだまだ、話し合う余地はあると思いますが、時間となりましたので、本日の分科会はこの辺で閉じたいと思います。
- **吉住室長** 今日の会議での皆様の発言をもとに、更に資料をバージョンアップしながら、次回、来年度と議論を深めることで、市長への提言としてまとめていきたいと思っています。本日はお疲れ様でした。

#### <産業経済分科会>

- **粕谷係長** (第2回のまとめを報告)
- **今野毅分科会長** 今、第2回の発言についてのまとめの報告がありました。当初、1年間で、もう2~3回で何かを作り上げる提案になればいいのではないかと考えておりましたが、我々の任期が平成24年6月までといいながらも、その辺は喫緊の課題として纏め上げられるよう、スピード感を持ちながらお話をいただければありがたいと思っています。先般、事務局と会の進め方の打合せを行いました。第2回のまとめを見ると課題が多岐に亘っておりますので、この中から何かひとつをとというのは、時間に限りもあり難しいなと思っています。そこで、様々な良い情報、今まで知りえなかった、認識していなかった事など、このような会議があるからこそわかったところもあります。私であれば農協のこと農業のこと、商工業者の方、林業者の方はそれぞれについてわかる訳です。そのような分野毎のネットワークはあると思いますが、それぞれの地域・産業を結ぶ蜘蛛の糸のようなネットワークが足りなかったのではという話しになりました。それらを有機的に結び付けていくというシステムがあるとなれば、あるいは作り上げた想定すると、前回の会議で、お年寄り宅に電化製品を取り付けに行ったところ、水道も直してくれと話しがあったというように、様々な派生した事業体が有機的に結びついたものになる可能性を秘めている気がします。全体の地域を様々な意味で掘り起こす人と人とのネットワーク、事業体と事業体とのネットワーク、そのような仕組みがあるとなれば人と人とのコミュニケーション、仕事と仕事とのコミュニケーション、全体的にボトムアップするのかなと思います。このようなシステムづくりにおいて、鶴岡市全体を統括する部分が必要ではないかという課題を提供させていただきますが、皆さんの方にも様々なご意見がお有りかと思っておりますので、お聞かせください。
- **早坂剛会長** 商工業と農業との関連、大切と言いながら実際は結びつきが弱い。農商工連携というけれど、どのようにしていけば良いのか、もっと連携が必要ではないかと考



えています。もうひとつ感じていますのは、人口減少の中、定住人口を増すことは難しいので、交流人口を観光でとなるわけですが、農業と観光の連携の会議でも、具体的な取り組みの話し合いにはなりません。ただちや豆をどうやって売なのか、お米、つや姫をどうやって売なのか、販促なども縦割りの中でやっているように感じています。

- **今野毅分科会長** それぞれの団体毎になっていることは認識しています。それでは、地域の全体的な底上げには繋がらないとも思っています。
- **早坂剛会長** 今、農業ではT P Pの問題がありますが、工業団地から見ると中国とか東南アジアに工場を移されたら雇用面で困ってしまいます。円高の中、残るようにするにはT P Pも大事なことではないかと思っており、グローバル化はどうしても避けて通れない問題です。このような中、市の基幹産業である農業がこの地でどう生きていくのか、もっと議論していかなくてはならないはずで、国民の食料をどう守るのかももっと考えなくてはならない大きな問題です。
- **今野毅分科会長** T P Pについては、農業団体、消費団体等々、反対運動を展開していますが、金融、人すべてにおいてボーダレスになりますので、地域経済全体、農業云々の問題だけではありません。日本全体の産業に関わる問題です。地域全体が上がってけば、農業や商店街だけでなく、さまざまなことを含めて市民全体が豊かになるであろうと我々は一生懸命やっていますが、いかんせん米価は下がってしまいます。ただ、今の個別所得保障制度の中では、米価は下がったけれど農家経済自体は、今年は大打撃ではないが、T P Pとかになると影響度はまったく違ってきます。そのようなことを考えると地域の消費者との、あるいは商工観の連携が農業振興の大きな柱となってくるのではと考えています。
- **五十嵐吉右衛門委員** 産業としては、農業も林業も漁業も商工業もありますが、それを絞って、現状についても研究しながら、任期中の平成24年6月まで提案として持っていけば良いのかなと考えます。我々の振興計画を基にして問題点を探りながら、それを細かくもっと掘り下げて、それについての市当局の考えも含め話し合えれば、私的には商工業関係の実態もわかるのではと考えております。
- **早坂剛会長** 鶴岡市の工業出荷額はどのくらいありますか。
- **佐藤正廣委員** 平成17年度工業出荷額は3,210億円、県内トップは米沢市です。
- **早坂剛会長** 酒田市は鶴岡市の半分位2,000億円程度とみれば、工業団地を中心とした出荷額は本当に大きい。ここで働いている人も6千人、8千人くらいいます。
- **佐藤正廣委員** 鶴岡市全体の平成19年度製造業従事者数は、14,363人です。
- **早坂剛会長** 農業の出荷額はどのくらいですか。
- **今野毅分科会長** J A鶴岡の農業生産額は約90億円となっています。
- **佐藤正廣委員** 平成18年度の市全体の農業産出額は284億6千万円です。
- **今野毅分科会長** これだけの人が鶴岡にいるということは、まだまだ底力があって、これから蓄財・蓄積できる力を持っていると思います。農業の場合は、従事者は2,000人弱、まだまだ地場産業としては低い。
- **佐藤正廣委員** 工場は中央資本が多く、不安定さがあります。従業員が千人単位でばっ

さり切られる可能性もなくはありません。

- **早坂剛会長** NECグループの製造工場は台湾とか中国に移っていますが、半導体の基盤を作っているのは国内2社しかなく、本当に基幹産業で最先端の製品を作っている鶴岡工場を簡単に無くすことはできないはずです。むしろ社内の知能集団が、鶴岡に集まってきており、工場としても戦略的な投資を行っています。円高が続くと集約的にやっている工場・事業所は外国に行きそうですが、鶴岡には技術があります。ケンウッドは業務用の大きな無線のみ鶴岡で作っています。何故ここにいるのか。働いている人の能力、従業員の入れ替わりが少ない、人件費も多少安い、環境的にも整っている。工業製品を作るだけでなく、山、海、食材など自然資源も整っていないとダメなのです。
- **五十嵐吉右衛門委員** 工業収益と農業収益では比べようが無い。農業収入は毎年低下していて、技術者が離れていく現状があります。しかし、手探り状態でも地域を活性化させていかなくてはなりません。
- **今野毅分科会長** 地域全体に人的資源などハイレベルな人が定着する、まさに定住人口を増やす取り組みです。大企業でなくても優良企業が集積されれば、頭脳集団的な人材が増えていくと考えます。
- **五十嵐吉右衛門委員** 今の農林業を辞めてサラリーマン化している状況をいかにくい止めるか、中山間地の活性化のためにもその方にどう手を差し伸べていくのか、この点についても、全体的な問題として考えるべきと思っています。国の施策として林業に対しても非常に関心が高くなっていますが、民有林の国土調査が進んでいません。木を伐採するにも境が分からないなどトラブルがあります。基盤整備をしないと林業の活性化はありません。市としても国土調査を10~20年かけて計画的に実施するべきです。
- **今野毅分科会長** 林地の整備は非常に大切なことと思います。山林が7割を占める本市において、山林資源をどう生かしていくのが重要な課題と考えます。
- **佐藤正廣委員** 商工業、農林水産業、公務サービスが連携している団体が青年会議所になります。農業専従者も2名（藤島、櫛引）います。全国組織に米穀部会があり、中越地震の際には、開発した棒状のおにぎりを被災地に差し入れもしています。また、米粉を使ったパンの開発も行っており、農家から製粉屋、米の加工業者など得意分野で連携できる強みを持っています。
- **今野毅分科会長** 農商工連携というか、そのような連携が鶴岡にあったらと思いますが、そのためのネットワークがありません。例えば自分が欲するもの、それがJCに行けば良いのか、商工会議所か森林組合か、すべての情報・データが集積されていると何か発信、あるいは新たなものが生まれる気がします。おそらくこうした地域ネットワークというのは、全国でもそう例がないのではないのでしょうか。
- **佐藤正廣委員** この類のネットワークは出来ては消え、出来ては消えていくケースが多いようです。青年会議所は、法的なしぼりが無いので様々な取り組みが出来る団体です。JAさんには赤川花火で協力をいただいているので、JAの旅行商品や鶴姫メロンのパンフレットを我々は宮城県や福島県の業者に持っていつています。
- **本間孝夫委員** TPPには大変関心があります。先日、TV番組で会津地域を例に挙げ

まして、就業者収入の90%が工業系の収入で、7%だけが農業の収入というような流し方をしながらどっちを取るかと、農業をダメにするとは言っていないのですが、こっちを取る方が全体の施策としては良い方向ではという報道がされていました。鶴岡市の基幹産業でもある農業をどう伸ばしていくのか、地域審議会の目的は、地域を元気にすることのはずです。第2回の発言内容が総合計画実施計画に具体的な問題として触れられてはいないものの、かなり反映されていると感じています。新たなものを提起するのではなく、今まで出てきたものをどう整理して、1つでも2つでも地域の活性化に繋げていけるのか気になっていましたが、今回の資料の中でそれが見えてきました。ただ、やはり連携は不足しており、例えば、農業分野でも在来品種を伸ばすという問題だけで終わってしまい、それをどうマーケティングして、伸ばしていける要素があるのか、入っていかないと具体的にならず終わってしまう気がします。この辺の詰めをこれからの意見として出していければと思っています。

- **今野毅分科会長** JA鶴岡でも来年度から3カ年計画を策定しますが、在来野菜についても、加工業者から販売者、学識者など様々の皆様からの意見を結びつけながらやっていくつもりでいます。そういった意味からも皆様からのご提言もいただきたいと思っています。
- **佐藤正廣委員** 10月に全農さんのご協力をいただき、アルケッチャーノの奥田さんから在来野菜を使った給食を作ってもらい、藤島地区で小学生に食べていただきました。新庄に行ったら、「漆野いんげん」が全国紙の隠れた名品に取り上げられたことで、作るのが追いつかないくらいの注文が来たという例がありました。鶴岡では、だだちゃ豆位ですが、これが宝谷かぶや藤沢かぶなど広がっていけば良いのですが、昔から鶴岡は広告宣伝が下手な所なので、どうかと思っています。
- **今野毅分科会長** 相対的にはそう言われていますが、広告宣伝はみんなが積み重ねていくことで文化とはならないまでも、発信の仕方も覚えていくのではないのでしょうか。
- **五十嵐吉右衛門委員** 先ほどかぶについての話がありましたが、これも一つの食文化なわけですが、例えばかぶを生産するのにどのような問題点があるのか、それに絞って、どう支援して育てていくのか、これが今日のテーマではないのでしょうか。そのものについて掘り下げて話し合いをしながら、どういう施策が考えられるのか、その辺が大事じゃないかと考えるわけです。藤沢かぶは、量的にもあまりありませんが、相当手間をかけて、山林を皆伐しないと播種出来ないこともあります。林産物をいかに生産するのか、木材だけでなく伐採した後に何の作物を栽培するのか、林業施策と一体に考えないと作付けも不可能な感じがします。
- **今野毅分科会長** 100年に1回しか採れない田川産の100年かぶというのがありますが、杉の場合はそれで仕方ないのですが、雑木などを植えて10～15年サイクルで耕作地として焼畑が出来ないかと考えます。
- **五十嵐吉右衛門委員** 出来るのです。焼畑はある程度の雑草や害虫などを焼いて、それで良いかぶが出来ます。100年でなくてもせいぜい20年、50年位でかぶを植える。毎年連作が出来ないので、新たに伐採したところでなければ栽培が不可能ですが、木を

切るためには山に道路が必要であり、そうした支援活動も大切だと考えています。

- **今野毅分科会長** それも長い目で見た行政施策の一つだろうと思います。2、3年後にお金になるものではないということは分かります。それぞれの部分で良いものがあるが、それをどうやって生かしていくのか、方法論が大事な気がします。
- **早坂剛会長** J A鶴岡へ要望があるのですが、世の中が変わっている時代において、将来、J Aとしてどういう方向に鶴岡の農家をもっていきたいのかという方針を示してもらうと、我々としても提言もできるのではと思っています。
- **今野毅分科会長** この地から農業が無くなることはないでしょうが、豊かな生活を得るためには今の生産体制では厳しいと思っています。それは規模の拡大、効率のよい経営体、それが集落営農なのか協業体の法人化なのか、そうしないと容易なことではありません。もうひとつ、米に大きく依存しない体制づくり、野菜や花などと複合的に、あるいはこれらに特化した人もいます。そのためにもしっかりとした振興計画を作っていく必要があります。一方で、鶴岡・庄内の米は、消費地では非常に高い評価を得ています。商品としての高い素地がありますので、多産地との差別化や付加価値の高いものへの取り組みにより、加工も含めたバランスのとれた様々なもの、お米に関しては可能性を秘めていると信じています。また、輸出も含めた農家振興・農業振興というプロジェクトにも取り組んでいきたいと思っています。もう1点は、田は1/3を転作していますが、管内の6千町歩の内2千町歩の転作田からいかに生み出すかです。ただちや豆とか大豆などで1千町歩、残りの1千町歩で、学校給食への提供も含めた畑作物ものの生産の振興も必要と考えています。ただひとつ難点があり、鶴岡の農家は依然として1反部あたり幾らになるという経営感覚で、幾らもうけるためにはとといった意識に変えていかないといけません。そういった意味で様々な連携が必要と考えています。
- **早坂剛会長** 林業もこうしていきたいという方向性を提案していく必要があります。工業製品も若い人の働く場として無くてはならないし、それはやはり支えていく食というものと自然はこの地域から絶対無くすことは出来ないという方向性をはっきりと決めておいて、市がどう具体的に取り組んでいくのか。宣伝をするとか、地元の消費を喚起していくとか、ここの連携がとれていないと、真っ正直なことばかりつまんでも、しょうがないと思っています。
- **五十嵐吉右衛門委員** 国の施策で山林の価値観が失われつつあります。山自体が外国資本から買収されている現状もあり、国の施策が大きな問題だと思っています。
- **早坂剛会長** 国も大事だけれど、地域がはっきりとした方針を出さないといけないと思います。我々は具体的なことを聞いていないので、そういうことがあるとすれば、協力も提案も出来ると思います。
- **今野毅分科会長** 一気に難しいが、これからいかに互いに連携していくような風習・文化を作っていくかが大事と考えます。
- **粕谷係長** 時間となりましたので、本日の分科会はここで終了していただき、引き続き、全体会の方に移っていただきたいと思います。どうもお疲れ様でした。

#### (4) 全体会

##### ・地域コミュニティ分科会のまとめ

- **山田登分科会長** いろいろな団体があるわけですが、その団体の横の連絡を活発にやるべきではないかのご意見がありました。全くその通りと思いますので、今後、団体の連絡を図れるような会議も学区単位で進めていただくようお願いしなければならないと思っております。そうでないと鶴岡市は活性化していかないのではないかと考えております。
- **今野毅分科会長** 産業の方ですが、今、地域コミュニティ分科会の会長さんから話があったように、やはり様々な経済団体があるわけですが、それぞれが頑張っておられ、非常に優秀な、素晴らしいものがこの鶴岡にあるわけです。ただそれが、横の連携、もっとつながりが持てたら。この地域全体が更にボトムアップするのではないかという結論になりました。鶴岡の様々な農商工連携、林業も水産も含め、素晴らしい資源に商工業者の手腕をいかに繋げるか、その仕組みが少ない、団体毎あるいはジャンル毎の連携はあるがその横の連携がないところが地域の資源を活かしきれていない、あるいは大きく中央に発信されていないのではないかということで、今回はこの辺について論を詰めていきたいとまとまったところです。
- **早坂剛会長** どうも縦割りの的に物事が進められ、せっかく良い会議とか組織、資源を持っているけれども、横の連携が取れていないことで、なかなか有機的に活動できていない、活かされていない、ということがお互いの結論のようです。せっかく鶴岡市の総合計画が出来ているわけですので、基本的なことですが鶴岡の農業をどうするか、商業をどうするかといった産業的なことについて、自分達が自立した考え方で、責任を持って作っていくということが、今、逆に言えば問われているのではと思います。鶴岡らしさをこれから出していくことが、もっと大事になっていくはずですので、そのように今後進めて行ってはいいのではないのでしょうか。もう1年間あるということですから、時間をかけながら、方向性をしっかり作りながら議論していったいいのではないかと思いますので、どうぞよろしく申し上げます。ありがとうございました。

#### (5) その他

##### 4 その他

##### 5 閉会 (午後12時) (吉住地域活性化推進室長)